

## 夢をあたえたいという夢

林京香さんが名古屋市立堀田小学校を卒業した。6年間ずっと同じクラスメイトと学校生活を送ってきた。卒業式では、うれしさとともに、さみしさも感じたことだろう。卒業アルバムのなかに京香さんの「手記」が載っている。



堀田小学校ホームページ

京香さんの学校での思い、京香さんならではの夢が綴られている。心にせまる京香さんの手記を多くの人に読んでもらいたく、写真から書き写した。

私には夢があります。

「夢をあたえたいという夢」

それは私のように人工呼吸器をつけていると、地域の学校に通えない子が多いからです。私の学校生活やおうちの生活をいろんな人に見せてあげることで、「人工呼吸器をつけていても楽しく学校に通えること」を知ってもらい、同じように障害をもつ子どもたちをはげましたいからです。知ってもらうために、私一人ではなく、障害のある子どもたちとコラボして発表するのもやってみたいのです。いろいろなところで発表をして、みんなの記憶にも、自分の記録にも残していきたいです。みんなの前で発表するのは苦手だけど、障害のある子どもたちの希望になるために、苦手なことにもがんばって挑戦したいな。

「クラスみんなに伝えたい」

みんなは6年間私にいろいろ声を掛けてくれました。中学校になったら新しい友達が増えるから楽しみです。どんどん話しかけて聞いてほしいので、目の合図で会話することを一緒に広めてほしいです。これからも、もっといろんな人に私の思いが広がるといいな。

「大人も子どももいろんな人の心が変わるといいな」

私の会話は、言葉ではなく目の合図で会話します。だから、目の合図をみんなが知ってくれるとたくさん伝えたいことや考えていることが分かると思います。静かそうに見えて、じつはいろんな人、一人一人のことを良く見て観察するのが得意です。声のトーンや雰囲気、その人の心のバランスや体の健康状態を感じとっています。

「私が大事だと思うこと」

人を見た目で「できる」「できない」を決めつけしないで。障害があっても介助者ではなく、遠慮しないで私に聞いて欲しい。

「建物のバリアフリー」のように、目で見えるものは整えやすいけれど、「こころのバリアフリー」のように、目で見えないものは変わりにくいから、心のバリアをもたない人を増やしていくのが、私の役割だと思っています。

(2018年3月30日)